2026/10/23

GFSIのご紹介

テーマ設定の背景・目的

GFSI日本ローカルグループ事務局
CGFジャパン　大久保力

The Consumer Goods Forum

・世界中の消費財のリテーラーとメーカーを結集する唯一の国際的な消費財業界団体
・世界の消費財企業とサービスプロバイダーを中心に、約400社（70カ国以上）が加盟

非競争分野において9つの戦略的組織を構成し、
会員企業が世界の関係者と連携して、社会的・環境的課題の解決に取り組んでいます。



CGF日本の活動

日本サステナビリティ ローカルグループ

ステアリング・コミッティ

- パーム油 WG
- 食品廃棄 WG
- 循環経済 WG
- 社会的サステナビリティ WG



フォレストポジティブ　食品廃棄　プラスチック廃棄　人権

日本CHL ローカルグループ

ステアリング・コミッティ

- 減塩 WG
- ヘルシーエイジング WG



CHL

GFSI 日本ローカルグループ

ステアリング・コミッティ

- テクニカル WG
- 行政連携 WG
- ナレッジコネクト WG



GFSI

WG：ワーキンググループ

Global Food Safety Initiative (GFSI) 設立の経緯

1990年代、世界中でBSE、ダイオキシン、リステリア菌による汚染など、深刻な食品事故が相次ぎ、リコールが多発しました。また、世界中では約400もの食品安全に関する認証規格が乱立し、食品事業者、特に製造現場では度重なる監査で時間・コストの負担が増え、疲弊していました。
原材料の調達や食品の流通がグローバル化する中、世界の経営者たちは安全な食品を消費者に確実に提供するため、これらの問題を連携して解決することに合意し、2000年5月にGFSI（Global Food Safety Initiative）が設立されました。

1990年代

食品安全を脅かす事故、リコールの多発

認証規格乱立による監査の重複、現場の疲弊

連携したアクションの必要性を経営者達が合意

2000年

CIES※の1活動としてGFSI発足

※ CIES – The Food Business Forum（国際チェーンストア協会）
“The Consumer Goods Forum”（ザ・コンシューマー・グッズ・フォーラム）の前身の組織

○GFSIのビジョン

Safe food for people everywhere

すべての人々に安全な食品を提供する

○ミッション

世界中の消費者へ安全な食品を確実に届けるために、食品安全マネジメントシステムの継続的改善を行う。

○戦略

・食品安全認証プログラムの規格を調和させ向上させる。

・グローバルな食品サプライチェーン全体で食品安全能力を向上させる。

・食品安全規制当局・政府間組織と食品産業との官民連携を進める。

第三者認証の仕組みとGFSIの役割

【認証プログラムオーナー(CPO)】

CPO：Certification Program Owner

GFSIベンチマーク要求事項



JFSM
（食品安全マネジメント協会）
FSSC財団
SQFI
JGF（日本GAP協会）
GLOBALG.A.P.
・
・
・

審査・登録・管理

契約

食品安全マネジメントシステム
の構築・運用

食品安全認証プログラム
の活用

第三者認証
利害関係のない第三者による
公平・公正な評価

認定
公平・公正な「認証」を行う
力があるかどうかを確認





JAB
（日本適合性認定協会）

MS
CM013

審査・認証
維持審査

認定



【食品事業者(FBO)】

FBO：Food Business Operator

【認証機関(CB)】

CB：Certification Body

【認定機関(AB)】

AB：Accreditation Body

GFSIの戦略

調和

世界の食品安全認証プログラムの水準を揃え、
食品安全マネジメントの全体的なレベル向上と
継続的な改善を実現する。



認証プログラムオーナー(CPO)

CPO：Certification Program Owner

JFSM
（食品安全マネジメント協会）
FSSC財団
SQFI
JGF（日本GAP協会）
GLOBALG.A.P.
・
・
・

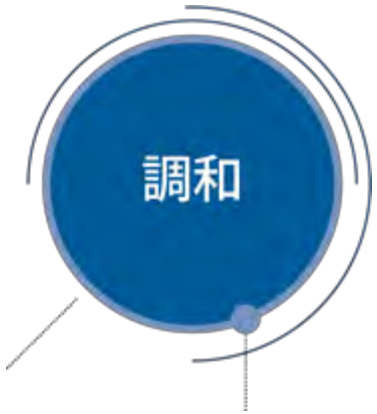
”GFSIベンチマーク要求事項“

認証プログラムのマネジメント
および認証プログラムに含ま
れる内容について定めた基準



- ✓ CPOの認証プログラムに対し、第三者の専門家によるベンチマークを実施。
- ✓ すべての要求事項が満たされていれば、GFSI承認（recognition）が得られる。
- ✓ MyGFSI（公式ウェブサイト）上で公表され、国際水準を満たした認証プログラムと認知される。

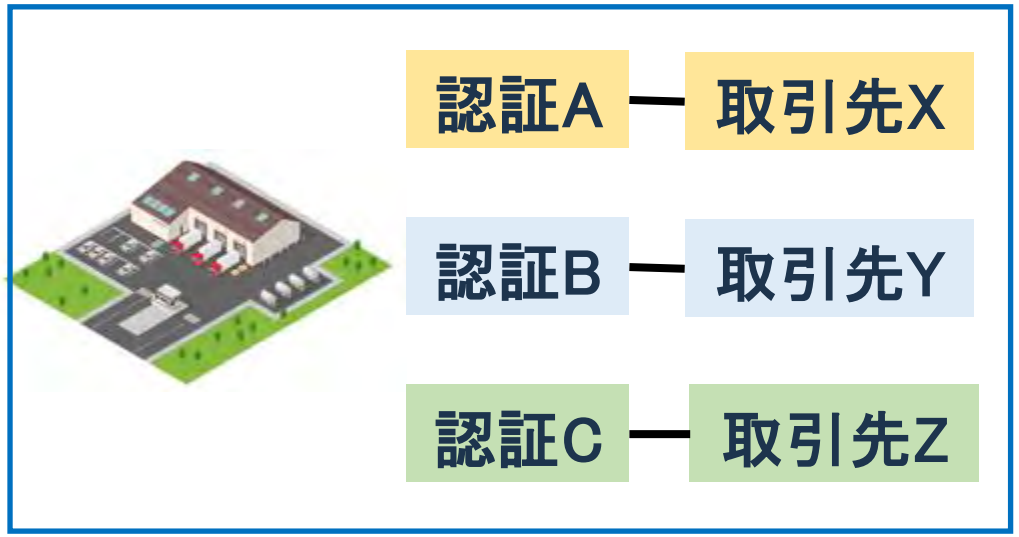
GFSIの戦略



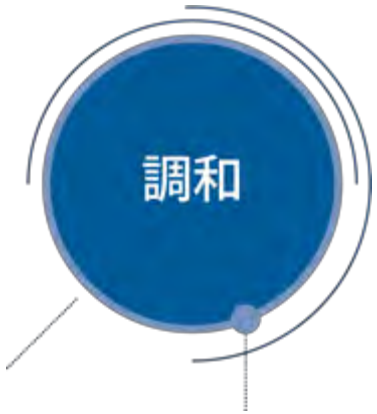
Once Certified, recognized Everywhere

いったん認証されれば、どこでも受け入れられる

”GFSI　ベンチマーク要求事項”を満たす認証プログラムを公表し、それらをどれか一つ取得すれば、世界の全てのステークホルダーに認められる状態を目指す。



GFSIの戦略



Once Certified, recognized Everywhere

いったん認証されれば、どこでも受け入れられる

”GFSI Benchmarking Requirements”を満たす認証プログラムを公表し、それらをどれか一つ取得すれば、世界の全てのステークホルダーに認められる状態を目指す。

【GFSIが承認した認証プログラムオーナー一覧】

BRCGS　CANADAGAP　FSSC 22000　Freshcare　Global Seafood ALLIANCE　GLOBALG.A.P.

GRMA　GRMS　IFS International Featured Standards　jfsm　primus GFS　SQF INSTITUTE

GFSIに対する３つの誤解

誤解１　GFSIが食品事業者に対して認証を行なっている。 ❌

「GFSI認証」という言葉を見聞きすることがあるように、GFSIが認証を行なっているという誤解が存在します。認証プログラムを保有しているのは認証プログラムオーナー（CPO）、認証を行うのは認証機関（CB）です。 GFSIは各認証プログラムのベンチマークは行いますが、**自ら認証プログラムを保有したり、認証を提供することは行っていません** 。

誤解２　GFSIは認証プログラムオーナー（CPO）を承認している。 ❌

GFSIは、CPOから申請のあった**個別の認証プログラム**をGFSIベンチマーク要求事項に基づいて評価し、そのプログラムに対して承認を与えています。CPOを承認することで、そのCPOが保有する認証プログラムがGFSI承認となるのではありません。例）JFS-C：GFSI承認、JFS-B：GFSI承認なし

誤解３　GFSIが承認した認証プログラムの認証を取得すれば二者監査をやらなくて良い。

❌

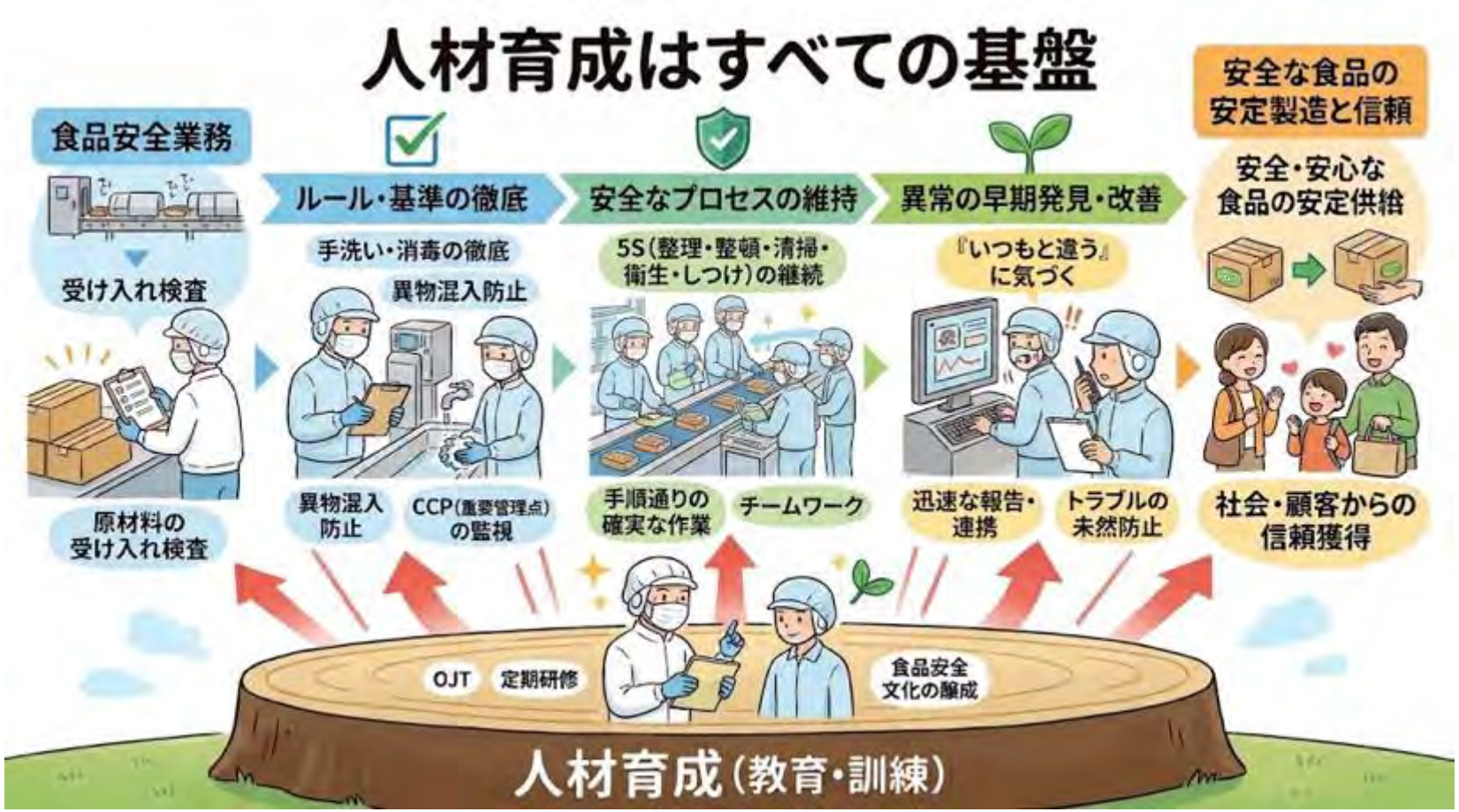
GFSIが承認した認証プログラム（第三者認証）は**食品安全**のための要求事項を提供しています。一方、二者監査では個別製品の品質を含む**顧客／ブランドの差別化要因**なども監査対象に含まれます。よって、第三者認証の取得は二者監査の食品安全部分の効率化にはつながりますが、二者監査全体を省略できることにはなりません。GFSIでは、第三者監査と第二者監査はお互いに補完的役割を果たすものであるという見解書を発信しています。

https://mygfsi.com/wp-content/uploads/2023/07/GFSI-position-the-role-of-third-party-certification-20210517-CLEAN-ja-1.pdf

2026/10/23

テーマ設定の背景･目的

GFSI日本ローカルグループ事務局
CGFジャパン　大久保力



食品安全／品質保証部門の人材育成の現状は？

食品安全／品質保証部門の人材育成の現状は？

15年前の個人的経験・・・

食品企業のグループ本社品質保証部に異動
「〇〇でHACCPの3日間の研修やっているから受けてきて。」
育成に関して何か言われたのはこの言葉のみ。（覚えているのは）
ひたすら業務を通して（のみ）能力向上に取り組んだ。

15年後の今、さまざまな会社の皆さんに聞いてみると・・・

えっ、状況はあまり変わっていない！？
加えて、若手中心にモチベーションの低下や、会社を辞める人が増えている！？
更には、要員の採用や社内での補充も難しくなってきている！？

食品安全の基盤が、揺らいでいるのでは！？

Japan Food Safety Day 2026「食品安全人材の確保と育成」

食品安全人材の確保と育成について、業界全体でどのような取り組みが必要でしょうか？

これからの講演とパネルディスカッションを聴きながら、ぜひ皆さん各自で考えてみてください。